

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年2月10日
【四半期会計期間】	第77期第3四半期(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
【会社名】	J S R株式会社
【英訳名】	JSR Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼COO 川 橋 信 夫
【本店の所在の場所】	東京都港区東新橋一丁目9番2号
【電話番号】	03(6218)3500(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 江 本 賢 一
【最寄りの連絡場所】	東京都港区東新橋一丁目9番2号
【電話番号】	03(6218)3500(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 江 本 賢 一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第76期 第3四半期 連結累計期間	第77期 第3四半期 連結累計期間	第76期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	223,728 (84,532)	256,594 (88,380)	312,000
税引前四半期(当期)利益 (百万円)	24,012	43,139	33,310
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益(損失) (百万円) (第3四半期連結会計期間)	6,674 (7,350)	35,372 (17,830)	55,155
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	6,764	43,805	43,458
親会社の所有者に帰属する 持分 (百万円)	385,077	364,275	333,995
総資産額 (百万円)	718,101	761,262	672,773
基本的1株当たり四半期 (当期)利益(損失) (円) (第3四半期連結会計期間)	31.07 (34.20)	164.52 (82.90)	256.73
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益(損失) (円)	31.02	164.30	256.73
親会社所有者帰属持分比率 (%)	53.6	47.9	49.6
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	49,783	28,424	70,403
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	37,991	50,007	52,687
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	11,559	2,633	4,297
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (百万円)	85,653	51,952	85,377

(注) 1 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。
- 第1四半期連結会計期間よりエラストマー事業を非継続事業に分類し、前第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び前連結会計年度の売上収益及び税引前四半期(当期)利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しております。
- 第76期において希薄化性潜在的普通株式がありますが、逆希薄化効果を有するため、希薄化後1株当たり当期利益(損失)の計算から除外されております。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び子会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

当社は2021年7月1日に持分法適用会社である錦湖ポリケム株式会社の全株式を譲渡し、同社は当社の持分法適用会社から除外されております。

当社は2021年5月に当社の子会社として新たに設立する日本合成ゴム分割準備株式会社に当社のエラストマー事業を吸収分割の方法により承継させた上で、日本合成ゴム分割準備株式会社の全株式をENEOS株式会社に譲渡することを決定したことに伴い、要約四半期連結財務諸表の作成上、エラストマー事業を非継続事業に分類しております。

当社はEUV用メタルレジストの開発・製造をしているInpria Corporationの78.7%の株式を2021年10月29日付で追加取得し、当社の完全子会社としました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から同年12月31日）の概況

当社グループの主要な需要業界の動向といたしましては、半導体市場はデジタル化の進展によるインフラやデバイス需要の拡大により好調でした。バイオ医薬品関連市場も好調に推移いたしました。

デジタルソリューション事業では、半導体材料事業においては最先端技術に対応した製品の拡販をすすめ、さらに、先端リソグラフィ分野におけるリーダーとしてのポジションを強化するために、米国の次世代EUV用メタルレジストメーカーであるInpria Corporationを子会社化することで、フォトレジストの製品ポートフォリオに将来技術となるメタルレジストを加えました。また、ディスプレイ材料事業では引き続き成長が期待される中国市場において競争力のある製品を中心に拡販を進めました。

ライフサイエンス事業では、米国の統括会社が当該事業全体の戦略を主導し、バイオ医薬品の開発・製造受託（CDMO事業）、医薬品の開発受託（CRO事業）を中心に拡大に努め売上収益が大幅に増加しました。

合成樹脂事業では、主に自動車業界の需要回復を取り込み売上収益を伸ばしました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上収益は2,565億94百万円（前年同期比14.7%増）、コア営業利益422億89百万円（同45.0%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益353億72百万円（同430.0%増）となりました。

2021年5月11日開催の取締役会において、当社のエラストマー事業を当社の子会社として新たに設立する日本合成ゴム分割準備株式会社に吸収分割の方法により承継させた上で、2022年4月に当該承継会社の全株式をENEOS株式会社に譲渡することを決定し、ENEOS株式会社との間で株式譲渡契約書を締結いたしました。

これに伴い、第1四半期連結会計期間より、エラストマー事業を非継続事業に分類しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の表示形式に合わせ、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の要約四半期連結損益計算書、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び関連する要約四半期連結財務諸表注記を一部組み替えて表示しております。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
売上収益						
デジタルソリューション事業	112,135	50.1%	123,289	48.0%	11,154	9.9%
ライフサイエンス事業	40,360	18.1%	53,320	20.8%	12,960	32.1%
合成樹脂事業	55,054	24.6%	70,664	27.6%	15,610	28.4%
その他事業	16,179	7.2%	9,322	3.6%	6,857	42.4%
調整額	0	0.0%	0	0.0%	0	- %
合計	223,728	100.0%	256,594	100.0%	32,867	14.7%

国内売上収益	76,394	34.1%	84,987	33.1%	8,593	11.2%
海外売上収益	147,333	65.9%	171,607	66.9%	24,274	16.5%

区分	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		増減	
	金額	売上収益比	金額	売上収益比	金額	比率
コア営業利益	29,163	13.0%	42,289	16.5%	13,126	45.0%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	6,674	3.0%	35,372	13.8%	28,698	430.0%

#### デジタルソリューション事業部門

デジタルソリューション事業につきましては、半導体材料は好調な半導体市場を背景に販売を伸ばし、ディスプレイ材料は中国での拡販を進め、売上収益は前年同期を上回りました。

コア営業利益は、半導体材料の売上収益の増加に伴う利益の増加及びInpria Corporation株式の追加取得による再評価益により、前年同期を上回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のデジタルソリューション事業部門の売上収益は前年同期比9.9%増の1,232億89百万円、コア営業利益は前年同期比36.2%増の363億34百万円となりました。

#### ライフサイエンス事業部門

ライフサイエンス事業につきましては、主にCDMO事業、CRO事業及びバイオプロセス材料の販売拡大により売上収益は前年同期を上回りました。

コア営業利益は、成長投資による費用の増加はあったものの、売上収益の増加により前年同期を上回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のライフサイエンス事業部門の売上収益は前年同期比32.1%増の533億20百万円、コア営業利益は前年同期比30.4%増の38億40百万円となりました。

#### 合成樹脂事業部門

合成樹脂事業につきましては、昨年度低迷していた自動車生産の回復を背景に、販売数量を大きく伸ばしたことにより、売上収益は前年同期を上回りました。

コア営業利益は、売上収益の増加に伴う利益の増加により、前年同期を上回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の合成樹脂事業部門の売上収益は前年同期比28.4%増の706億64百万円、コア営業利益は前年同期比102.1%増の50億50百万円となりました。

## ( 2 ) 財政状態の概況と分析

当社は、第1四半期連結会計期間において、当社の子会社として新たに設立する日本合成ゴム分割準備株式会社に当社のエラストマー事業を吸収分割の方法により承継させた上で、日本合成ゴム分割準備株式会社の全株式をENEOS株式会社に譲渡することを決定し、2021年5月11日付で、ENEOS株式会社との間で株式譲渡契約書を締結いたしました。これにより第1四半期連結会計期間より当社のエラストマー事業に関する資産及び負債を売却目的保有に分類される処分グループに分類しております。本影響等により、当第3四半期連結会計期間末の売却目的保有に分類される処分グループに係る資産が1,737億88百万円増加、売却目的保有に分類される処分グループに係る負債が1,264億34百万円増加しております。

### 資産

当第3四半期連結会計期間の総資産は、エラストマー事業も含めた棚卸資産の増加等により、前期比884億90百万円増加し、7,612億62百万円となりました。

### 負債

当第3四半期連結会計期間の負債は、エラストマー事業も含めた営業債務の増加等により、負債合計で前期比573億77百万円増加し、3,594億13百万円となりました。

### 資本

当第3四半期連結会計期間の資本は、利益剰余金の増加等により、前期比311億13百万円増加し、4,018億49百万円となりました。

## ( 3 ) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間の現金及び現金同等物（以下「資金」）は、前年同期比337億2百万円減少し、519億52百万円となりました。

営業活動による資金収支は284億24百万円の収入（前年同期は497億83百万円の収入）となりました。主な科目は税引前四半期利益431億39百万円、減価償却費及び償却費159億83百万円、営業債権及びその他の債権の増加額191億64百万円、法人税等の支払額又は還付額111億9百万円（支出）であります。

投資活動による資金収支は500億7百万円の支出（前年同期は379億91百万円の支出）となりました。主な科目は連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出473億48百万円であります。

財務活動による資金収支は26億33百万円の支出（前年同期は115億59百万円の収入）となりました。主な科目は短期借入金の純増減額222億8百万円（収入）、長期借入金の返済による支出135億44百万円、配当金の支払額139億71百万円であります。

## ( 4 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## ( 5 ) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は185億46百万円でありませ

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	696,061,000
計	696,061,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2022年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	226,126,145	226,126,145	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	226,126,145	226,126,145	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストック・オプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年10月1日～ 2021年12月31日	-	226,126	-	23,370	-	25,230

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2021年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2021年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,050,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 214,984,100	2,149,841	-
単元未満株式	普通株式 91,245	-	-
発行済株式総数	226,126,145	-	-
総株主の議決権	-	2,149,841	-

(注) 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式35株が含まれております。

【自己株式等】

2021年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
J S R 株式会社 (自己保有株式)	東京都港区東新橋一丁目9 番2号	11,050,800	-	11,050,800	4.89
計	-	11,050,800	-	11,050,800	4.89

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、四半期連結財務諸表規則第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」という。）に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【要約四半期連結財務諸表】

## ( 1 ) 【要約四半期連結財政状態計算書】

( 単位：百万円 )

	注記	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び現金同等物		85,377	51,952
営業債権及びその他の債権		125,292	77,752
棚卸資産		104,862	85,697
その他の金融資産	12	1,933	293
その他の流動資産		11,815	15,959
小計		329,279	231,653
売却目的保有に分類される処分グループ に係る資産	5	-	173,788
流動資産合計		329,279	405,442
<b>非流動資産</b>			
有形固定資産		170,428	154,694
のれん		58,633	117,802
その他の無形資産		15,014	14,706
持分法で会計処理されている投資		21,015	2,892
退職給付に係る資産		4,905	4,874
その他の金融資産	12	49,751	32,038
その他の非流動資産		3,598	2,584
繰延税金資産		20,150	26,231
非流動資産合計		343,494	355,821
資産合計		672,773	761,262

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債及び資本</b>			
<b>負債</b>			
<b>流動負債</b>			
		100,797	65,507
		9,368	9,749
		37,872	41,280
		4,866	11,512
		1,837	85
	12	3,874	2,697
		10,196	6,875
		<u>168,810</u>	<u>137,705</u>
	5	-	126,434
		<u>168,810</u>	<u>264,139</u>
<b>非流動負債</b>			
		7,861	12,390
	8	81,406	48,627
		16,434	10,151
	12	19,314	15,852
		5,136	4,622
		3,077	3,632
		<u>133,227</u>	<u>95,274</u>
		<u>302,036</u>	<u>359,413</u>
<b>資本</b>			
<b>親会社の所有者に帰属する持分</b>			
		23,370	23,370
		11,562	11,906
		302,916	331,950
		19,202	18,900
		15,348	15,948
		<u>333,995</u>	<u>364,275</u>
		<u>36,741</u>	<u>37,574</u>
		<u>370,736</u>	<u>401,849</u>
		<u>672,773</u>	<u>761,262</u>

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
継続事業			
売上収益	4, 9	223,728	256,594
売上原価		139,656	159,252
売上総利益		84,072	97,342
販売費及び一般管理費		54,870	62,756
その他の営業収益	10	1,236	9,733
その他の営業費用	10	3,802	2,194
持分法による投資損益		71	25
営業利益	4	26,565	42,101
金融収益	4	510	2,255
金融費用	4	3,063	1,217
税引前四半期利益	4	24,012	43,139
法人所得税		6,074	9,414
継続事業からの四半期利益		17,938	33,725
非継続事業			
非継続事業からの四半期利益(損失)	5	11,189	3,686
四半期利益		6,749	37,411
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		6,674	35,372
非支配持分		75	2,039
合計		6,749	37,411
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益(損失)			
基本的1株当たり四半期利益(損失) (円)		31.07	164.52
継続事業	11	78.82	146.80
非継続事業	11	47.75	17.72
希薄化後1株当たり四半期利益(損失) (円)		31.02	164.30
継続事業	11	78.69	146.61
非継続事業	11	47.67	17.69

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
継続事業			
売上収益	4	84,532	88,380
売上原価		53,265	54,121
売上総利益		31,267	34,259
販売費及び一般管理費		18,975	22,475
その他の営業収益		454	7,727
その他の営業費用		473	265
持分法による投資損益		68	34
営業利益	4	12,341	19,212
金融収益	4	230	613
金融費用	4	1,581	521
税引前四半期利益	4	10,989	19,303
法人所得税		2,558	2,866
継続事業からの四半期利益		8,431	16,437
非継続事業			
非継続事業からの四半期利益(損失)		899	2,341
四半期利益		7,532	18,778
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		7,350	17,830
非支配持分		183	948
合計		7,532	18,778
親会社の所有者に帰属する1株当たり 四半期利益(損失)			
基本的1株当たり四半期利益(損失) (円)		34.20	82.90
継続事業	11	37.73	72.99
非継続事業	11	3.53	9.91
希薄化後1株当たり四半期利益(損失) (円)		34.15	82.79
継続事業	11	37.68	72.90
非継続事業	11	3.53	9.89

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期利益	6,749	37,411
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の純変動額	1,185	1,480
確定給付負債(資産)の再測定額	129	211
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	0	2
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジに係る公正価値の純変動額	7	18
在外営業活動体の換算差額	447	5,962
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	615	553
税引後その他の包括利益合計	895	8,221
四半期包括利益合計	7,643	45,632
四半期包括利益合計額の帰属		
親会社の所有者	6,764	43,805
非支配持分	880	1,827
合計	7,643	45,632

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
四半期利益	7,532	18,778
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の純変動額	1,158	494
確定給付負債(資産)の再測定額	43	70
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	1	-
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジに係る公正価値の純変動額	3	484
在外営業活動体の換算差額	812	5,306
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	140	80
税引後その他の包括利益合計	2,070	4,479
四半期包括利益合計	9,602	23,257
四半期包括利益合計額の帰属		
親会社の所有者	8,859	21,828
非支配持分	743	1,429
合計	9,602	23,257

## (3)【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

注記	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素			
2020年4月1日残高	23,370	18,242	369,102	19,547	5,626	396,793	40,619	437,412
四半期利益			6,674			6,674	75	6,749
その他の包括利益					90	90	805	895
四半期包括利益合計	-	-	6,674	-	90	6,764	880	7,643
株式報酬取引		12		266	107	170		170
配当金	7		12,888			12,888	463	13,352
自己株式の変動		11		58		47		47
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替			726		726	-		-
非支配持分の変動		5,691			23	5,714	4,298	10,012
その他の増減額			554		460	95	0	94
所有者との取引額等合計	-	5,690	12,716	324	397	18,480	4,761	23,241
2020年12月31日残高	23,370	12,551	363,060	19,223	5,319	385,077	36,738	421,814

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

注記	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素			
2021年4月1日残高	23,370	11,562	302,916	19,202	15,348	333,995	36,741	370,736
四半期利益			35,372			35,372	2,039	37,411
その他の包括利益					8,433	8,433	212	8,221
四半期包括利益合計	-	-	35,372	-	8,433	43,805	1,827	45,632
株式報酬取引		328		248	196	380		380
配当金	7		13,975			13,975	1,127	15,102
自己株式の変動		12		54		42		42
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替			7,637		7,637	-		-
子会社株式の売却による変動		34				34	133	167
その他の増減額		6				6		6
所有者との取引額等合計	-	343	6,337	302	7,833	13,525	994	14,519
2021年12月31日残高	23,370	11,906	331,950	18,900	15,948	364,275	37,574	401,849

## (4)【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税引前四半期利益		24,012	43,139
非継続事業からの税引前四半期利益(損失)	5	13,760	4,335
減価償却費及び償却費		21,086	15,983
受取利息及び受取配当金		569	1,301
支払利息		1,481	1,827
持分法による投資損益		270	1,186
減損損失		1,408	5,416
段階取得に係る差損益(は益)	6	-	7,467
営業債権及びその他の債権の増減額		7,398	19,164
棚卸資産の増減額		9,910	29,845
営業債務及びその他の債務の増減額		14,089	29,330
その他		3,448	3,819
配当金の受取額		680	1,485
利息の受取額		161	203
利息の支払額		1,428	1,773
法人税等の支払額又は還付額		3,608	11,109
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>49,783</b>	<b>28,424</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
定期預金の純増減額		1,047	1,390
有形固定資産等の取得による支出		39,824	34,171
有形固定資産等の売却による収入		278	61
投資の取得による支出		1,530	1,089
投資の売却による収入		1,975	16,657
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	6	-	47,348
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入		498	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出		-	45
関連会社の売却による収入		-	14,709
貸付金の貸し付けによる支出		431	138
貸付金の回収による収入		625	312
その他		629	344
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>37,991</b>	<b>50,007</b>

(単位：百万円)

	注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
短期借入金の純増減額		1,185	22,208
長期借入金の返済による支出		8,743	13,544
長期借入金の借入れによる収入		9,944	6,207
社債の発行による収入	8	34,836	-
自己株式の取得による支出		1	4
配当金の支払額	7	12,886	13,971
非支配株主への配当金の支払額		463	1,127
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 取得による支出		10,013	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の 売却による収入		-	160
リース負債の返済による支出		2,626	2,976
その他		327	413
財務活動によるキャッシュ・フロー		11,559	2,633
現金及び現金同等物に係る為替換算差額の影 響額		371	542
現金及び現金同等物の増減額		23,722	24,757
現金及び現金同等物の期首残高		61,931	85,377
売却目的保有に分類される処分グループに 係る資産に含まれる現金及び現金同等物		-	8,667
現金及び現金同等物の四半期末残高		85,653	51,952

## (5) 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

J S R株式会社(以下「当社」という。)は、日本に所在する株式会社であります。本要約四半期連結財務諸表は、当社及び子会社(以下「当社グループ」という。)並びに当社の関連会社及び共同支配企業に対する持分により構成されております。当社グループにおいては、「デジタルソリューション事業」、「ライフサイエンス事業」、「合成樹脂事業」を基軸として、これらに關係する事業を行っており、その製品は多岐にわたっております。詳細は、「注記4.セグメント情報」をご参照ください。

### 2. 作成の基礎

#### (1) 準拠する会計基準

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。

なお、要約四半期連結財務諸表は、年度の連結財務諸表で要求されている全ての情報を含んでいないため、2021年3月31日に終了した前連結会計年度の連結財務諸表と併せて使用されるべきものであります。

#### (2) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、退職後給付制度に係る資産及び公正価値で測定される金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

#### (3) 表示通貨及び単位

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社が営業活動を行う主たる経済環境における通貨である日本円で表示し、百万円未満を四捨五入しております。

#### (4) 表示方法の変更

(エラストマー事業を非継続事業に分類したことによる変更)

第1四半期連結会計期間において、当社は当社の子会社として新たに設立する日本合成ゴム分割準備株式会社に当社のエラストマー事業を吸収分割の方法により承継させた上で、日本合成ゴム分割準備株式会社の全株式をENEOS株式会社に譲渡することを決定し、2021年5月11日付で、ENEOS株式会社との間で株式譲渡契約書を締結いたしました。

これに伴い、第1四半期連結会計期間よりエラストマー事業を非継続事業に分類しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の表示形式に合わせ、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の要約四半期連結損益計算書、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び関連する要約四半期連結財務諸表注記を一部組み替えて表示しております。

(5) 重要な会計上の見積り及び判断

要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行っております。実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しております。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した会計期間と将来の会計期間において認識しております。

当要約四半期連結財務諸表の金額に重要な影響を与える見積り及び判断は、前連結会計年度の連結財務諸表と同様であります。

(6) 未適用の公表済み基準書及び解釈指針

重要な影響を及ぼすものについて該当事項はありません。

(7) 要約四半期連結財務諸表の承認

2022年2月10日に、要約四半期連結財務諸表は当社代表取締役社長兼COO川橋信夫及び最高財務責任者宮崎秀樹によって承認されております。

3. 重要な会計方針

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しております。

#### 4. セグメント情報

##### (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定しております。

当社グループは、本社に製品別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しており、また、中核グループ企業が中心となって国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社グループは、事業部及び中核グループ企業を基礎とした製品別のセグメントから構成されております。

当社グループは従来、半導体材料、ディスプレイ材料、エッジコンピューティング関連等を製造販売しております「デジタルソリューション事業」、「ライフサイエンス事業」、自動車タイヤ用途の汎用合成ゴム、自動車部品用途の機能性特殊合成ゴム、樹脂改質用途の熱可塑性エラストマー、塗工紙用途の合成ゴムラテックス等を製造販売しております「エラストマー事業」、及び自動車やOA機器・アミューズメント用途等のABS樹脂等を製造販売しております「合成樹脂事業」の4つを報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「デジタルソリューション事業」、「ライフサイエンス事業」、「合成樹脂事業」の3つを報告セグメントとしております。

この変更は、当社が当社の子会社として新たに設立する日本合成ゴム分割準備株式会社に当社のエラストマー事業の一部を吸収分割の方法により承継させた上で、日本合成ゴム分割準備株式会社の全株式をENEOS株式会社に譲渡することを決定し、2021年5月11日付で、ENEOS株式会社との間で株式譲渡契約書を締結したのに伴い、エラストマー事業を非継続事業に分類したことによるものです。当社が日本合成ゴム分割準備株式会社に承継しないエラストマー事業の一部は金額的な重要性が低下したため、「その他」へ区分を変更しております。

なお、「デジタルソリューション事業」は、製品及びサービスの性質、生産過程の性質及び市場等の経済的特徴の類似性に基づき、複数セグメントを集約した上で報告セグメントとしております。

報告セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している方法と同一であります。

当社は、第1四半期連結会計期間よりエラストマー事業を非継続事業に分類しており、セグメント情報はエラストマー事業を除く継続事業のみの金額を表示しております。

##### 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
デジタルソリューション事業	<半導体材料事業> リソグラフィ材料（フォトレジスト、多層材料）、実装材料、洗浄剤、CMP材料、等 <ディスプレイ材料事業> カラー液晶ディスプレイ材料、有機ELディスプレイ材料、等 <エッジコンピューティング事業> 耐熱透明樹脂及び機能性フィルム、光造形、等
ライフサイエンス事業	診断・研究試薬および同材料、バイオプロセス材料、創薬支援サービス、等
合成樹脂事業	ABS樹脂、AES樹脂、AS樹脂、ASA樹脂等の合成樹脂

(2) 報告セグメントの収益及び損益

当社グループの報告セグメントに関するセグメントの情報は以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結
	デジタル ソリューション	ライフ サイエンス	合成樹脂				
外部顧客からの売上収益	112,135	40,360	55,054	16,179	223,728	0	223,728
セグメント損益 (コア営業利益)(注3)	26,668	2,944	2,499	1,144	33,255	4,092	29,163

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、化学品等の仕入・販売の事業等を含んでおります。

2. セグメント損益の調整額 4,092百万円には、各セグメントに配賦されない全社損益等が含まれております。

3. セグメント損益は営業利益から事業構造改革から生じる損失等の非経常的な要因により発生した損益を控除したコア営業利益で表示しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結
	デジタル ソリューション	ライフ サイエンス	合成樹脂				
外部顧客からの売上収益	123,289	53,320	70,664	9,322	256,594	0	256,594
セグメント損益 (コア営業利益)(注3)	36,334	3,840	5,050	816	46,041	3,751	42,289

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、化学品等の仕入・販売の事業等を含んでおります。

2. セグメント損益の調整額 3,751百万円には、各セグメントに配賦されない全社損益等が含まれております。

3. セグメント損益は営業利益から事業構造改革から生じる損失等の非経常的な要因により発生した損益を控除したコア営業利益で表示しております。

セグメント損益から、税引前四半期利益への調整は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
セグメント損益	29,163	42,289
減損損失戻入	-	1,175
事業構造改革費用	2,438	-
子会社出資金評価損	-	1,411
割増退職金	160	-
その他	-	48
営業利益	26,565	42,101
金融収益	510	2,255
金融費用	3,063	1,217
税引前四半期利益	24,012	43,139

(注) 減損損失戻入、事業構造改革費用及び子会社出資金評価損に関する詳細は、注記「10. その他の営業収益及びその他の営業費用」をご参照下さい。

前第3四半期連結会計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
	デジタル ソリューション	ライフ サイエンス	合成樹脂				
外部顧客からの売上収益	38,361	14,210	22,462	9,499	84,532	0	84,532
セグメント損益 (コア営業利益)(注3)	9,742	1,329	1,849	768	13,688	1,187	12,501

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、化学品等の仕入・販売の事業等を含んでおります。

2. セグメント損益の調整額 1,187百万円には、各セグメントに配賦されない全社損益等が含まれております。

3. セグメント損益は営業利益から事業構造改革から生じる損失等の非経常的な要因により発生した損益を控除したコア営業利益で表示しております。

当第3四半期連結会計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
	デジタル ソリューション	ライフ サイエンス	合成樹脂				
外部顧客からの売上収益	42,681	19,628	22,882	3,189	88,380	0	88,380
セグメント損益 (コア営業利益)(注3)	16,745	1,895	1,595	324	20,558	1,346	19,212

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、化学品等の仕入・販売の事業等を含んでおります。

2. セグメント損益の調整額 1,346百万円には、各セグメントに配賦されない全社損益等が含まれております。

3. セグメント損益は営業利益から事業構造改革から生じる損失等の非経常的な要因により発生した損益を控除したコア営業利益で表示しております。

セグメント損益から、税引前四半期利益への調整は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
セグメント損益	12,501	19,212
割増退職金	160	-
営業利益	12,341	19,212
金融収益	230	613
金融費用	1,581	521
税引前四半期利益	10,989	19,303

## 5. 売却目的保有に分類される処分グループ及び非継続事業

### 売却目的保有に分類される処分グループ

#### (エラストマー事業の会社分割及び承継会社の株式譲渡)

当社は、2021年5月11日開催の取締役会において、当社の子会社として新たに設立する日本合成ゴム分割準備株式会社に当社のエラストマー事業を吸収分割の方法により承継させた上で、日本合成ゴム分割準備株式会社の全株式をENEOS株式会社に譲渡することを決定し、同日付で、ENEOS株式会社との間で株式譲渡契約書を締結いたしました。本株式譲渡は2022年4月1日を予定しておりますが、国内外の競争法その他の法令に基づき必要なクリアランス・許認可等の取得が完了することが条件となります。

本件譲渡の決議に伴い、エラストマー事業の資産及び負債を売却目的保有に分類される処分グループに分類し、エラストマー事業は第1四半期連結会計期間から非継続事業に分類しております。

売却目的保有に分類される処分グループに係る資産および負債の金額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2021年12月31日)
売却目的保有に分類される処分グループに係る資産		
現金及び現金同等物	-	8,667
営業債権及びその他の債権	-	68,122
棚卸資産	-	49,989
その他の金融資産（流動）	-	279
その他の流動資産	-	2,971
有形固定資産	-	34,753
その他の無形資産	-	2,008
持分法で会計処理されている投資	-	1,463
その他の金融資産（非流動）	-	4,215
その他の非流動資産	-	62
繰延税金資産	-	1,260
資産合計	-	173,788
売却目的保有に分類される処分グループに係る負債		
営業債務及びその他の債務	-	67,458
借入金	-	18,810
未払法人所得税	-	175
その他の金融負債（流動）	-	746
その他の流動負債	-	1,822
社債及び借入金	-	26,725
退職給付に係る負債	-	5,572
その他の金融負債（非流動）	-	4,399
その他の非流動負債	-	727
繰延税金負債	-	0
負債合計	-	126,434

当第3四半期連結会計期間末における、売却目的で保有する処分グループに係る資産及び負債に関連するその他の資本の構成要素は 50百万円（税効果考慮後）です。

非継続事業

「売却目的保有に分類される処分グループ」に記載のとおり、エラストマー事業を非継続事業に分類しております。

(1) 非継続事業からの損益

非継続事業からの損益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上収益	93,068	134,797
売上原価及び費用	106,827	130,462
非継続事業税引前四半期利益(損失)	13,760	4,335
法人所得税費用	2,570	649
非継続事業からの四半期利益(損失)	11,189	3,686

当第3四半期連結累計期間の売上原価及び費用には、非継続事業を構成する資産又は処分グループを売却コスト控除後の公正価値で測定したことにより認識した損失6,024百万円が含まれております。当該公正価値は、主に譲渡対象の事業価値を基礎として算出しております。公正価値のヒエラルキーはレベル3に分類されております。

非継続事業に係る基本的及び希薄化後1株当たり四半期利益(損失)は要約四半期連結損益計算書をご参照ください。

(2) 非継続事業から生じたキャッシュ・フロー

非継続事業からのキャッシュ・フローは、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,435	6,712
投資活動によるキャッシュ・フロー(注)	11,424	9,017
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,514	745
現金及び同等物換算差額	1,024	114
合計	473	14,869

(注) 前第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出(処分された子会社の現金及び現金同等物) 1,176百万円が含まれております。

## 6. 企業結合等関係

前第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

重要な取引はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

（Inpria Corporationの株式取得による子会社化）

### (1) 企業結合の概要

当社はEUV用メタルレジストの開発・製造をしているInpria Corporation（所在地：米国オレゴン州、CEO: Andrew Grenville、以下「Inpria」）の78.7%の株式を2021年10月29日付で追加取得し、当社の完全子会社としました。

#### 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称      Inpria Corporation  
事業の内容                  EUV用メタルレジストの開発・製造

#### 取得日

2021年10月29日

#### 取得した議決権比率

取得日直前に所有していた議決権比率	21.3%
取得日に追加取得した議決権比率	78.7%
取得日の議決権比率	100.0%

#### 支配獲得方法

現金を対価とする株式の取得

#### 企業結合の主な理由

Inpriaは、2007年の設立以来、EUV用メタルレジストの開発に取り組んでおり、主要製品であるスズ酸化物を主成分とするメタルレジストは、EUV露光系で世界最高性能の限界解像度を達成しています。さらに、従来のレジストに比べドライエッチング時のパターン転写性能が高く半導体の量産プロセスに対しても優れた適正を有しています。

本買収の完了によって、当社の強みであるフォトリソの製品ポートフォリオに有力な将来技術であるメタル系レジストを加え、顧客の更なる微細化技術を支える先端材料企業として、シームレスに価値を提供することを目的としております。

### (2) 取得日における支払対価の公正価値、取得した資産、引き受けた負債の認識額

	金額
	百万円
取得日直前に保有していた資本持分の公正価値	9,447
現金	46,654
支払対価の公正価値 計	56,101
流動資産	
現金及び現金同等物	1,043
営業債権及びその他の債権	151
その他	151
非流動資産	
有形固定資産	357
その他	9
取得資産	1,711
流動負債	
営業債務及びその他の債務	572

その他 非流動負債	76
その他 引受負債	9
	<hr/>
	658
のれん	55,048

当第3四半期連結会計期間末において、発生したのれんの金額、企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額等については、企業結合日における識別可能資産及び負債の特定を精査中であり、取得価額の配分が完了していないため、暫定的な会計処理を行っております。

当社が取得日直前に保有していた資本持分を支配獲得日における公正価値で再測定した結果として認識した評価益は7,467百万円であり、要約四半期連結損益計算書の「その他の営業収益」に計上しています。また、当企業結合に係る取得関連コストは122百万円であり、当四半期連結累計期間に発生した金額を要約四半期連結損益計算書の「販売費及び一般管理費」にて費用処理しております。

のれんの内容は、主に期待される将来の収益力に関連して発生したものであります。当該のれんは税法上、損金には計上できません。

### (3) 企業結合によるキャッシュ・フローへの影響

	金額
	百万円
取得により支出した現金及び現金同等物	46,654
取得時に被取得会社が保有していた現金及び現金同等物	1,043
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	45,611

### (4) 当社グループの業績に与える影響

要約四半期連結損益計算書に含まれているInpriaから生じた売上収益及び四半期利益、並びに当企業結合が期首に実施されたと仮定した場合の売上収益及び四半期利益への影響は軽微であります。

7. 配当に関する事項

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月17日 定時株主総会	普通株式	6,441	30	2020年3月31日	2020年6月18日	利益剰余金
2020年10月27日 取締役会	普通株式	6,447	30	2020年9月30日	2020年11月27日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月17日 定時株主総会	普通株式	6,447	30	2021年3月31日	2021年6月18日	利益剰余金
2021年11月8日 取締役会	普通株式	7,528	35	2021年9月30日	2021年12月8日	利益剰余金

8. 社債

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

発行した社債は、次のとおりであります。

会社名	銘柄	発行年月日	償還期限	発行総額 (百万円)	利率 (%)	担保
J S R株式会社	第8回無担保社債	2020年5月28日	2025年5月28日	13,000	0.180	なし
J S R株式会社	第9回無担保社債	2020年5月28日	2027年5月28日	10,000	0.290	なし
J S R株式会社	第10回無担保社債	2020年5月28日	2030年5月28日	12,000	0.370	なし

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

該当ありません。

## 9. 売上収益

顧客に対する製商品の販売契約については、顧客への製商品を引き渡した時点で、製商品への支配が顧客に移転し、履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。また、役務の提供については、当社グループが顧客との契約における履行義務の充足に従い、主に一定期間にわたり収益を認識しております。

主たる地域市場における収益の分解と報告セグメントとの関連は以下のとおりであります。  
前第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

（単位：百万円）

		国内	海外	合計
報告セグメント	デジタルソリューション	20,257	91,878	112,135
	半導体材料	13,929	56,107	70,036
	ディスプレイ材料	3,576	31,711	35,287
	エッジコンピューティング	2,753	4,060	6,813
	ライフサイエンス	9,873	30,487	40,360
	合成樹脂	33,918	21,136	55,054
その他		12,346	3,833	16,179
合計		76,394	147,333	223,728
調整額		0	-	0
要約四半期連結損益計算書計上額		76,394	147,333	223,728

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

		国内	海外	合計
報告セグメント	デジタルソリューション	22,349	100,941	123,289
	半導体材料	15,296	66,735	82,032
	ディスプレイ材料	4,052	30,570	34,622
	エッジコンピューティング	3,001	3,635	6,636
	ライフサイエンス	11,782	41,538	53,320
	合成樹脂	42,292	28,372	70,664
その他		8,565	756	9,322
合計		84,987	171,607	256,594
調整額		0	-	0
要約四半期連結損益計算書計上額		84,987	171,607	256,594

## 10. その他の営業収益及びその他の営業費用

(その他の営業収益)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

重要な取引はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(減損損失戻入)

ディスプレイソリューション事業の減損損失戻入として1,175百万円を「その他の営業収益」に計上しております。

(段階取得に係る差益)

Inpria Corporation株式の追加取得による再評価益として7,467百万円を「その他の営業収益」に計上しております。

(その他の営業費用)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(事業構造改革費用)

ディスプレイソリューション事業の構造改革等の関連費用として2,438百万円を「その他の営業費用」に計上しております。固定資産の減損損失や割増退職金などが主な内容であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(子会社出資金評価損)

非連結子会社に対する出資金の評価損として1,411百万円を「その他の営業費用」に計上しております。

## 11. 1株当たり情報

基本的1株当たり四半期利益及び算定上の基礎、希薄化後1株当たり四半期利益及び算定上の基礎は、以下のとおりになります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
(1) 基本的1株当たり四半期利益(損失)	31.07	164.52
継続事業	78.82	146.80
非継続事業	47.75	17.72
(算定上の基礎)		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (損失)(百万円)	6,674	35,372
継続事業	16,931	31,562
非継続事業	10,257	3,809
普通株式の期中平均株式数(千株)	214,816	214,997
(2) 希薄化後1株当たり四半期利益(損失)	31.02	164.30
継続事業	78.69	146.61
非継続事業	47.67	17.69
(算定上の基礎)		
ストック・オプションによる普通株式 増加数(千株)	336	290

	前第3四半期連結会計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
(1) 基本的1株当たり四半期利益(損失)	34.20	82.90
継続事業	37.73	72.99
非継続事業	3.53	9.91
(算定上の基礎)		
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (損失)(百万円)	7,350	17,830
継続事業	8,109	15,699
非継続事業	759	2,131
普通株式の期中平均株式数(千株)	214,900	215,078
(2) 希薄化後1株当たり四半期利益(損失)	34.15	82.79
継続事業	37.68	72.90
非継続事業	3.53	9.89
(算定上の基礎)		
ストック・オプションによる普通株式 増加数(千株)	329	282

12. 金融商品

(1) 金融商品の区分ごとの公正価値

償却原価で測定される金融資産及び金融負債の公正価値は帳簿価額と近似しております。

(2) 公正価値ヒエラルキー

当社グループは、公正価値の測定に使用されるインプットの市場における観察可能性に応じて、公正価値のヒエラルキーを、以下の3つのレベルに区分しております。

レベル1：活発な市場における同一資産又は同一負債の無調整の公表価格

レベル2：レベル1に属さない、直接的又は間接的に観察可能なインプット

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法から算出された公正価値

当社グループが経常的に公正価値で測定している資産及び負債は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度(2021年3月31日)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>				
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
有価証券(資本性金融資産)		-	3,805	3,805
デリバティブ	-	1	-	1
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
有価証券(資本性金融資産)	25,141	-	17,239	42,380
ヘッジ手段として指定された金融資産				
デリバティブ	-	-	-	-
合計	25,141	1	21,044	46,186
<金融負債>				
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債				
デリバティブ	-	544	-	544
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ手段として指定された金融負債				
デリバティブ	-	271	-	271
合計	-	815	-	815

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間(2021年12月31日)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<金融資産>				
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産				
有価証券(資本性金融資産)	-	-	1,391	1,391
デリバティブ	-	-	-	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産				
有価証券(資本性金融資産)	11,652	-	17,813	29,465
ヘッジ手段として指定された金融資産				
デリバティブ	-	-	-	-
合計	11,652	-	19,203	30,855
<金融負債>				
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債				
デリバティブ	-	1,290	-	1,290
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融負債				
ヘッジ手段として指定された金融負債				
デリバティブ	-	20	-	20
合計	-	1,311	-	1,311

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替を生じさせた事象又は状況の変化が生じた日に認識しております。前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間において、公正価値レベル1とレベル2の間の重要な振替は行われておりません。

なお、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、レベル3に分類された金融商品には重要な増減がないため、期首残高から四半期末残高への調整表の開示を省略しております。

### (3) レベル2及び3に区分される公正価値測定に関する情報

レベル2に分類されている金融資産・負債は為替予約、金利スワップ等に係るデリバティブ取引であります。為替予約、金利スワップ等の公正価値は、取引先金融機関等から提示された金利等の観察可能な市場データに基づき算定しております。

レベル3に分類されている金融資産は主として非上場株式であります。非上場株式の評価は、主に状況に応じ投資先の将来の収益性又はキャッシュ・フローを総合的に考慮した適切な技法により、公正価値を測定しております。その結果は適切な権限者がレビュー及び承認しております。レベル3に分類される金融商品について、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合の公正価値の増減は重要ではありません。

### 13. 後発事象

該当事項はありません。

## 2【その他】

2021年11月8日開催の取締役会において、当社定款第37条の規定に基づき、2021年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し金銭の分配（中間配当）を次のとおり行う旨決議しました。

(イ) 中間配当金の総額 7,528百万円

(ロ) 1株当たりの中間配当金額 35円

(ハ) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 2021年12月8日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年2月10日

J S R株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 平野 巖

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田村 俊之

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加瀬 幸広

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているJ S R株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、J S R株式会社及び連結子会社の2021年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。